
うろごまく

27

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

うろごまぐ

【Nコード】

N9222N

【作者名】

27

【あらすじ】

ある事情から学校に行けずキミの話を楽しみにいるボク。

人生のあらゆる場面で葛藤しながら自由に生きようともがくワタシ。

一番近くて遠い距離。

それぞれの切り口で展開するストーリー。

1) ボク

いい香りだ。

隙間から漏れる光もちょうどいい。

何よりキミがいる。それだけで十分だ。

肩に回された腕がふと重くなる。

ありがとう、だろ。キミの言いたいことはわかってる。

ずっと、ずっと一緒だよ。

- - - - -

ある事情があつて学校に行けないボクにキミは毎日その日起きた出来事を話してくれた。

「今日はね、先生お休みだったんだよ」

おかげで学校に行っていないとは思えないほど学校に詳しくなった。

1年生の教室の後ろのロッカーの一番左端の一行は棚がないことも
図工室に向かう唯一の階段の二段目が踏むたびに音がなることも
2組の石田が1組のアイドルひなちゃんを好きで2組対1組の戦争
に至ったことも

みんなキミが教えてくれた。

ボクは学校に行きたいと思つたことがないとは言えないけど

学校に行けないことで疎外感を感じることも学校に毎日通うキミを
妬んだこともなかった。

学校に行けないボクをかわいそうだと思う人はもしかしたらいたの

かもしれないけど
そんなことキミの話を聞くことができることの幸せの前には少しの
痛みもなかった。

(でもやっぱりちょっとは学校に行ってみたかった)

中学にもやっぱりボクは同じような事情から行くことは許されな
かった。

キミはプライドが高いから勉強も一生懸命だったけど、
学校に行っていないボクはプライドをどう維持していいかわからず
キミに聞きながら自分なりに勉強していた。

キミレベルで勉強していたから学校にいつ行っても大丈夫、という
安心感があったな。

部活をはじめたキミは「忙しいのがワタシらしい」と古臭い台詞に
生活を合わせるかのように
兼部をして部長まで兼任して、生徒会選挙に落ちて、2回目は受か
って。走り続けていた。

演劇の都大会にも出て、どうしても見に行きたかったボクは
あらゆる手段を講じてでも行こうと努力したけれど
とうとう叶わず、キミは笑って撮ってきたビデオを何度も何度も見
せてくれた。

3年連続の出場を全部キミの解説つきで見られたんだからボクは幸
せだと思つことにした。

女同士の付き合いが苦手なキミは大変そうだったけど

好きな人ができたが一番にボクに報告するのは嬉しかった。
否、正直に言おう。ボクはちょっと参ってた。

キミの幸せそうな顔を見られるのは幸せだったけど
学校にも行かれないボクはキミが恋しているそいつがなんだか憎ら
しくて

そうだ。はじめてボクは学校に行けないことをつらく思ったのはこ
の時だった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9222n/>

うろごまく

2010年10月28日05時14分発行